

令和4(2022)年度 下都賀地区特別支援教育研修会を開催しました

日時 令和4(2022)年7月28日(木) 13:30~16:00
会場 下都賀庁舎(大会議室・福利厚生棟会議室・101会議室)
対象 下都賀地区小・中・義務教育学校教員
(希望者:特別支援教育担当教員や通常の学級の担任等)

1 研修の目的・内容等

(1) 目的

事例等を通じた具体的な研修を行うことにより、通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒に対する個に応じた支援の充実に資する。

(2) 内容

- ① 講話 通常の学級における特別支援教育の推進
栃木市立栃木中央小学校 寺内 美由紀 教諭
- ② 分科会 課題解決に向けての班別協議

2 本研修で確認したこと

(1) 特別支援教育の推進について

- ① 栃木県の取組:栃木県教育振興基本計画2025(特別支援教育の充実)
- ② 下都賀地区の取組:下都賀地区学校教育の重点
「一人一人の教育的にニーズに応じた特別支援教育」

(2) 通常の学級における特別支援教育の推進

子どもの実態の把握

- ① 生活の中で
 - ・学習、生活での困り感、児童同士のトラブル、生活の乱れ、忘れ物
- ② 本人の思い
 - ・面談、個別指導、相談
- ③ 保護者からの相談
 - ・複数の窓口

各種調査の活用



学級担任との連携
(報・連・相)

きめ細かな支援につなげる

保護者との連携・校内支援体制の構築

- ① 保護者との面談
 - ・夏季個人面談、個別教育相談
 - ② 校内ケース会議
 - ・情報の共有、支援方針の整理、組織的な支援
- ※ 様々な視点から子どもの困り感やよさを把握したり、できることの共有を図ったりするなど、一人の子どもを多面的に見る。

学習指導に関する連携

- ① ユニバーサルデザイン
 - ・「どの子にも分かる」を目指し、学習指導や掲示物の精選
- ② アセスメント
 - ・学級と学習に関するアンケート（栃木県総合教育センター）
 - ・LD児等の行動兆候チェック ・多層指導モデルMIM等
- ③ すくすくシートUD
 - ・アセスメント結果から読み取れる児童の特徴を基に作成



すくすくシートUDから

事例1

こだわりが強く、教師の指示に対応できず動作が遅くなる。
見るべき視点が多いと集中できない

事例2

注意力やコミュニケーション能力が低い
→聞いた情報の理解が苦手
書くことが苦手



〈 授 業 実 践 〉



- ・ワークシートや板書など、情報量をコントロール
- ・実感を伴った理解のために、具体物を作成
- ・いつでも振り返れるように、板書に具体物を示す

- ・書く作業を極力減らしつつ、理解を深められる方法を研究
- ・実際に作った回路を元に、タブレット端末上の回路図を用いて考察
- ・タブレット端末等、机上を整理

R3年度インクルーシブ教育指導員派遣事業より

スモールステップでできることを増やす

- 根気・集中力・良い習慣

その子に合った方法を見つける

- ゴールは同じでも、そこに向かう道は人それぞれ



障害の有無にかかわらず、子どもたちが共に学校生活を送る「インクルーシブ教育」

- 児童が正しく理解し、助け合い支えあって生きていくことの大切さを学ぶ。

まとめ

一人一人の可能性をそれぞれの集団でいかに引き出せるか。
仲間に苦手なことがあればお互いに助け合う。
自分にできないことは甘える。つながりを大切に。

3 本研修で学んだこと（参加者が記入した「研修の振り返り」より）

【講話】

- ・「お互いに助け合う」「自分にできないことは甘える」という内容が心に響きました。この姿勢は学級経営にも、大人の社会においても大切な考えだと思いました。
- ・特性のある子どもの「苦手」も他の子どもの「苦手」も同じ「苦手」という認識をもって接していきたいと思いました。
- ・寺内先生の「つながり」という言葉が印象に残りました。特別な支援を要する子どもの周囲との関わりが、その子どもの成長に大きくつながると感じました。また、学校のサポート体制等、教員同士のつながりも大切にしていきたいと思いました。
- ・できないところばかりに目を向けるのではなく、できるところを見つけてほめるということを行っていききたいです。
- ・教員同士、保護者、各教育機関との連携した教育、支援の大切さを感じることができました。支援学級での気付きや悩みを交流学級の先生と共有し、子どものために打ち合わせをする時間を設けていこうと思いました。
- ・ケース会議の持ち方について、担任だけでなく、様々な立場の先生方の意見を聞き、「多面的に見る」ことは、児童理解の上でとても大切なことだと思いました。
- ・特別支援教育は何人かの児童のための特別なものだととらえていました。今回寺内先生のお話を聞き「一人一人の可能性を集団の中でいかに引き出せるか」が大切なのだと感じました。
- ・まず児童の実態把握を最優先に、そして保護者との連携や校内ケース会議の大切さを学びました。すくすくシートや各アセスメントの活用についても勉強になりました。
- ・特別支援コーディネーターとして外部機関、スクールカウンセラー、教育委員会等からアドバイスを聞きながら共通理解を図り、コーディネートしていきたいです。
- ・今までその子にとって良いと思って行っていることが、実はその子にとってマイナスになることがたくさんあったと思いました。今回お話を伺って、子どもの行為を分析しそこからどう対応していくかを考えることが大切だと学びました。
- ・特別支援教育は子ども一人一人に対してですが、個人への支援が全体につながることが多いと感じました。

【分科会】

- ・分科会では、私の直面したことのない問題についても一緒に考えさせてもらえ、大変勉強になりました。
- ・先生方の知恵をお借りでき、支援に対する視野を広くできました。定期的に情報交換の場があるとありがたいです。
- ・様々な立場の先生方から意見を聞くことができとても勉強になりました。
- ・事例をもとに話し合うことで、さまざまな子どもの見方があると知ることができました。職場でもたくさんの先生方と考えていくことで、よりよいアプローチの仕方を見つけていきたいです。
- ・学級での指導に関して、たくさんのアイデアをいただきました。2学期からの指導に生かしていきたいです。

